

「学び続ける力」を高める学習指導の在り方(第一年次)

－指導方法の工夫・改善を通して－

福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 星 克明

1 研究の趣旨

福島県では「第7次福島県総合教育計画」が策定され、「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」へと「学びの変革」が掲げられた。さらに、「令和5年度 学びの変革推進プラン」では、全ての子供たちに必要な資質・能力を育成するため、画一的な一方通行の授業からの「学びの変革」の実現が改めて強調された。そこで本研究では、上記の三つの学びを支える力を、粘り強く学びをつなげ続けていく自己調整の力、すなわち「学び続ける力」と捉え、「学び続ける力」を高める学習指導の在り方を提案・発信する。そのために、第一年次研究では、「学び続ける力」を高めるための指導方法の工夫・改善に向けた理論研究を推進する。

2 研究の概要

(1) 児童生徒の「学び続ける力」の実態や課題の把握

本研究では、「学び続ける力」を測定するための質問紙(尺度)を作成し、児童生徒の実態や課題の把握等を行った。あわせて、今後の研究推進のための本格的運用に向けた、測定精度の向上および確認作業を行った。

- 「因子分析後の質問紙(尺度)②(4因子18質問項目へ精選)」の妥当性と信頼性の確認を行った。妥当性は、基準関連妥当性を検証した。外的基準との強い相関が確認でき、妥当性ありと判断した。信頼性は、一貫性と安定性を検証した。前者は、クロンバックの α 係数が基準値を超えた。後者は、再検査法による検証で強い相関が確認できた。よって、信頼性ありと判断した。

(2) 児童生徒の「学び続ける力」を高めるための効果的な対話活動^{※1}の工夫と改善

実際の対話活動時の児童生徒の姿に寄り添い、対話活動の工夫・改善を行い、「対話活動を支えるポイント」と「対話活動の工夫のポイント①②」として示し、実際の授業でその有効性を検証した。

- 自分の考えが形として残る「対話活動を支えるポイント」によって、問題解決や振り返りの場面での対話活動の充実につながった。
- 問題解決や振り返りに位置付けた「対話活動の工夫のポイント①②」によって、「分からないこと」と「分かること」等が明確になった。そのことで、新たな課題の発見や課題の明確化・自分事化が促され、既習の知識等の生かし方について協働的に学んでいく「学び続ける力」の発揮につなげることができた。また、このことは、一連の対話活動の工夫によって、児童生徒の学習負荷が緩和され、問題解決や次の学習への意欲が高まった姿とも考えられた。

※1 本研究における対話活動への着目理由の詳細は、研究発表資料を参照

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 「学び続ける力」尺度の妥当性と信頼性が一定程度担保されたことから、この尺度は、児童生徒の「学び続ける力」の変容を測定する際や、工夫・改善した指導方法の効果の検証を行う際など、様々な検証及び分析に利活用できると考えられる。
- 「学び続ける力」の発揮や高まりにつながる、対話活動の工夫・改善のポイント及び対話活動を支えるポイント、それらの有用性を、実際の児童生徒の姿を通して実証的に示すことができた。

(2) 今後の課題

- 研究のゴールである「学びの変革ガイド(仮)」の作成と普及を見据えると、更なる「学び続ける力」を高める授業改善のための具体案や手立てが必要となる。そのため、「学び続ける」尺度と関連した指導支援の方法や、対話活動の工夫のポイント、小中高の系統性と教科の特質を重視した学習指導の工夫等について、関係諸機関との連携も視野に入れながら具体化を目指したい。